

健康教育手法研修会実施報告書

1. 実施の経緯と健康教育セミナーの概要

ISAPH ラオスは、2012年2月にラオス政府とのフェーズ3の了解覚書（Memorandum of Understanding）を締結した。内容は、2011年12月で終了したJICA 草の根技術協力プロジェクト「生き生き健康村づくりプロジェクト」（以下「草の根事業」）の成果達成に貢献した健康教育手法を他の活動地域（カシ地区、カンペータイ地区）に普及することが主軸となっている。健康教育という手段により住民の知識を向上させ、認識を高めたことで、行動変容にまで至ったことがラオス保健省関係者にも高く評価されたことから、今期の活動の主体は健康教育手法の普及となった。カムアン県保健局より現在の3活動地域のみならず県内の他の郡に対しても健康教育手法を普及し、住民参加型健康教育のレベルの向上に努めてもらいたいとの要請があげられたことから、株式会社リコー社会貢献クラブ・FreeWillへ助成金を申請し、健康教育のセミナー実施を計画した。

今回のこの健康教育セミナーが非常に重要であり、且つ効果的であったことは、昨年からラオスの保健政策に健康教育（Health Communication）があげられ、その強化が謳われたことから読み取れる。今回の研修では、その内容も含め、カムアン県保健局管轄の全郡保健局職員を対象に研修が実施されたことは、意義深い。更に今後の健康教育を担う看護師を養成する同県保健学校の教員も参加者に含めた。

また、ISAPHが目指す「住民に理解しやすく、興味が持て、楽しみながら学べる」健康教育の重要性を県保健局健康教育課の職員が理解し、彼らが主体となって指導が行われたことは、今後の普及活動においても更なる期待が持てる。

2. 日時および場所

2013年6月12日（水）～14日（金） カムワン県保健局会議室

3. 目的

各郡保健局職員が、健康教育手法についての知識を得て理解し、実際に住民へ健康教育を行うことができるようになることを目的とした。また、県保健学校職員が学生へ効果的な健康教育手法を教授できるようになることも目的に加えた。

4. 参加者

総計：37人

内訳 講師4名、講師補助1名、研修者23名、来賓2名、ISAPHカウンターパート（県保健局）1名、ISAPHラオス事務所5名、ISAPH東京事務所1名

*参加者詳細は別紙参照のこと

5. スケジュール

*スケジュール詳細は別紙参照のこと

6. 研修会内容：

1日目：研修前テスト、講義、ゲーム

講義の前に、研修前の参加者の知識レベルを測るため、テストを実施した。

講義は、健康教育の基本となる「IEC/Information, Education, Communication」の考え方から始まった。そこで住民とのコミュニケーションの重要性を理解させ、その後、健康教育の要点について保健省で実施した健康教育手法の手引きと県保健局担当者が作成した資料を基に講義を行った。住民とのコミュニケーションについての講義の途中で、人へ物事を正確に伝える難しさを研修者たちに体感してもらう為、2つのグループに分かれ伝言ゲームを行う等、参加者の理解を高めるための工夫もみられた。

2日目：前日の講義の復習、講義、健康教育教材の紹介、グループワーク、発表、評価

前日の講義の復習を質疑応答形式で行い、その後、健康教育立案方法や健康教育教材について講義を行った。午後からは3グループに分かれそれぞれが各テーマごとに健康教育内容および手法を考え、各グループの代表者2名が発表を行った。発表終了後は、各グループの発表内容および手法に関してISAPHと健康教育課の職員が評価を行った。健康教育課の職員の指摘事項は、住民へは分かり易い言葉を使用すること、住民へは敬意を表し健康教育を行うこと、一方的な健康教育にならないように住民を巻き込みながら健康教育を行うことや資料の見せ方など、教育を受ける側の目線に立った指導を行っていた。

❖ グループワークのテーマ

- ① デング熱について：使用教材 フリップチャート、ポスター
- ② 母乳育児について：使用教材 パネルシアター
- ③ 下痢症（寄生虫）について：使用教材 フリップチャート、ポスター

3日目：実習@村、研修後テスト、総評

3つのグループに分かれ、タケク郡タケー村の村びと（大人62人、子ども22人）へ健康教育を実施した。

❖ 健康教育のテーマ

- ① デング熱について：使用教材 フリップチャート、ポスター
- ② 母乳育児について：使用教材 パネルシアター
- ③ 下痢症と寄生虫感染の予防について：使用教材 フリップチャート、ポスター

実習終了後、研修前に行った同じ内容のテストを行い、その後で今回の研修会の総評を行った。総評後、終了式を執り行い、受講証明書授与と教育教材を進呈し、セミナーを終えた。

❖ テスト結果

	研修前	研修後
平均点	46点	90点

7. 配布物

研修時に使用した健康教育教材を各郡保健局、各ヘルスセンター、看護学校へ配布した。
健康教育教材は以下のとおり。

1) ポスター3種類

①3 大栄養素について (ISAPH 作成)、②手洗いについて (ISAPH 作成)、③タイ肝吸虫について (ラオス保健省作成)

2) パネルシアター (ISAPH 作成)

①手洗いについて、②飲み水について、③母乳育児について

3) フリップチャート (JICA とラオス保健省が共同で作成)

4) T シャツ (ISAPH 作成) ①～⑤の中から、1人1枚ずつ配布。

①5 歳未満児の栄養、②妊婦の栄養、③母乳栄養、④手洗い、⑤飲み水

8. 経費

内 容	金額
会場費(会場費、休憩時のお茶菓子など)	¥33,396
研修用消耗品(ノート、筆記用具など)	¥11,820
参加者及び講師 (旅費、宿泊費、謝金など)	¥255,840
教材費(パネルシアター、フリップチャート、Tシャツ)	¥79,350
教育教材指導職員派遣費(旅費、宿泊費)	¥115,360
合 計	¥495,766

※内、¥300,000-をリコー社会貢献クラブ・FreeWill 助成金から充当

9. 感想

研修者 23 名のうちこれまで健康教育手法研修会へ参加したことがある人は僅か 2 名であった。普段、研修会へ参加する機会がない為か、研修者全員から講義・グループワーク・実習に対して非常に前向きな姿勢がみられた。また、質疑応答では活発な意見交換が行われ講師側も研修者の意欲に満足した様子であった。

今回の研修では、健康教育についての基本的な知識の習得とパネルシアター、フリップチャート、ポスターなどの教材の有効利用についての講義や実習に加え、グループワークによって得た知識の応用、更には村の住民を対象とした実践さながらの実習に至る、理論から実践までを網羅したバランスの取れた研修内容であった。

参加者は予定より 5 名増えたことに加え、急激な円高も影響し、予算の削減を余儀なくされた。そのため研修期間は当初の 3 日半から 3 日間に短縮された。その分の時間を補うため 1 日の研修時間を延長しハードなスケジュールとなったが、講師も参加者もその時間を更に延長し講義や質疑応答を続けるほどの熱心さには驚嘆した。

最終日の実習では、指導者から受けた指摘事項を踏まえ、各グループとも住民との対話によりコミュニケーションを深めつつ、「分かりやすく、楽しく、興味もてる」健康教育を行うことができていた。今回学んだ事を生かした健康教育を各自の対象地区で実践できてこそ成果だと思うので、今後、研修者には自ら健康教育計画を立案し住民へ効果的な健康教育を実践できるように

なって欲しい。

研修者からは、次回は栄養指導に関する健康手法や健康教育教材について学びたいとの意見があがった。可能であれば来年度も郡保健局やヘルスセンター職員を対象とした健康教育手法研修会を開催できればと思う。その時は、研修後の効果やどのように健康教育を行ってきたかなど、今回の研修のモニタリングも行いたいと思う。

10. 謝辞

今回の健康教育セミナー実施にあたり、助成金を下さった株式会社リコー社会貢献クラブ・FreeWillの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。このように健康教育セミナーが開催され、予想以上の成果をあげることができましたのも、貴社のご支援のおかげです。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

11. 写真



講義の様子



伝言ゲームの様子



講義の様子



ISAPHによる教育教材指導の様子



グループワーク(発表)の様子



グループワークの様子



グループワークの様子



実習前の研修生の様子



実習の様子



実習の様子



実習の様子



実習の様子

1 2. 添付資料

1) 参加者リスト、2) スケジュール（日本語訳）

以上